

へる様になり夫に別れて子ある爲に奉公も出来かねて手近な死を選ばうと云ふ矢先に安心して子を引きとられて奉公に行けた女の人もあるさうです。

參觀した日は寒い曇つた日でした。が八疊敷位の暖い室に小さい寢臺が四つ位づゝ並び清潔な寢具や毛布にくるまつてすや／＼と眠つてゐる幼児もあり籐の寢椅子の布團の中から聲をあげてゐる口へ看護婦がさじで暖いミルクをつぎこんでゐるものもありました。衛生上の知識のない親達から重病に苦められて泣く子供を食べねばならぬ事に逐はれてこづき廻したり罵つたり毒々しい駄菓子等を與へられてゐる子供達がかく手當行き届いた世話をされるのは全く幸福と云ふより外はありません。文明と共にこの種の事業がもつと大規模になる事を祈ります。尙こゝの幼児の最も多い疾患は榮養不良で泣き聲さへ立て得ぬのや消化不良や呼吸器病が多いさうです。因に弘田博士は「獨逸あたりの託兒所は一都會をなす所には必ず一ヶ所ありそして副事業として牛乳の分配をもしてゐる。託兒所附の醫者が子供の年齢様子を見て牛乳のうすめ方や分量を適當にして母親に毎日與へ母親は十日に一遍位子供を見せに來てそれにより

醫者は又手加減をする事をやつてゐるが共立育兒會でもそれ迄やり度いが経費が許さないので實行出来ない」と語られました。

○電車の中で

淺草橋の停留場からどや／＼と乗り込んだ客の中で、子供連れの夫婦が隣りへ來た。夫婦とも男の子を一人宛れんれこで同じ様におぶつてゐる。髪をひつつめにして、洗ひざらしの袴で見ると、暮し向の程も思はれるが、手に笹の葉のついた竹竿を持つて、それにも中の皮の様なふわ／＼したもので出來た狐の面がぶら下つてゐる。えびす様の顔もある。巾着の形も下つてゐる。何れも毒しい畫の具の赤や青で光つてゐる。而も狐の耳は片方なくなつてゐるが、大方子供がほしがつて食べて見たもの、餘りのまつさに止したものだらうと思つて見た。夫の膝の新聞包でべつたら市の歸り客と見えたが、れんれこでおぶつて迄芋を洗ふ様な緑日やうな色づけをした駄菓子を與へられる子供が可愛想だ。親の愛は深いに違ひないが、無智なのが痛ましい。

前に腰かけてゐる中學の生徒が突然立ち上つて退いた。見るとよれ／＼の絆でんに煮こめた手拭をこめて、病後でもあらう頭髪の薄くなつた五十前後の男が、腰かけてゐる。顔はと見れば全體青ざめて何となく腫れてゐるらしい、その中隣りの人へ尋ねた事は「富川町のりかへますか」。

無智も悲しいが貧も亦悲しい。そして無智と貧とはこの社會では親子相續してゆくのであらう。

(R子)